詞花和歌集

詞花和歌集卷第一

春

法住院殿百首歌奇せきのかよひちの
仁絃よりて

大蔵卿匡房

氷ゐ[illegible]のうちさえわたりさゝ浪よする春風歌

寛和二年内裏歌合にかすみをよめる

藤原惟成

きのふまでわたりしかとも今朝はこの岸春かすみたる

天徳四年内裏歌合によめる

平兼盛

ふる雪はまだきあわゆきとみえしかど春のしるしにかすみ
たちけり

道命法師

春風さそふなりけりまちえてはうぐいすのこえをわがものがほ

菅原孝標女

雪きえぬいそのうらかぜ橋ふかし春はあけぬとやまの
冷泉院春宮と申しける時百首歌のうちに

源重之

春日野は雨のくきもみえぬまに雪の流れはあらしなりけり

鷹司殿乃七十賀の屏風に子日しきなる
ところをよめる
赤染衛門
おきのためよ宿にひくるゝ子日の松もうらやまん
たいしらす
新院御製
子日すと春の野ことにたつぬれは松にひかるゝ心ちこそすれ
梅花遠薫と云心を
源時綱
吹く風のをとまりと梅もちらさぬかしのまちせぬか
梅花歌よめる
右兵衛督公行
むめの花ゆゑひと道のしるへしてあるしもしらぬ宿にきにけり

題志らす
僧恵法師
浦こえて菜所のくさのなつかしく駒もとまらぬ春風のいろ
備部兼雅
とく出る草のはらへとかさてゝ駒の足おきさして春めくらん
天徳四年内裏歌合に柳をよめる
平兼盛
さほひめのいとそめかくる柳をやさくそ吹みたれそ春の山かせ
贈太后の家乃歌合によめる
源季宗
いる風は新しからぬ春風にむすほゝれたるやなきのいと（吹とくる）

古乃やなきをよめる　源道済

ふるさとのみかきの柳はる〳〵とたかそめかけしあさみとりそも

題しらす　源頼政

見山木のそのこすゑとも見えさりし桜ハ花にあらはれにけり

京極前太政大臣の家にて哥合し侍りけるによめる　康資王母

紅のうす花さくらにほはすハみなしら雲と見てや過まし

このうたを判者大納言経信くれなゐの桜ハ詩にハ作れとも哥にハよみたることなむなき

と申けれハ判者にかはりて康資王母のもとにつかはしける　京極前太政大臣

志ら雲ハ立へたつれと紅のうす花さくらこゝろにそそむ

返し　康資王母

白雲ハさもたゝハたて紅のいまひとしほを君しそめなハ

おなし哥合によめる　一宮紀伊

あさまたき霞なこめそ山さくらたつねゆくまのよそめにも見ん

大蔵卿匡房

白雲と見ゆるにしるしみよしのの吉野の山の花さかりかも

義暦二年内裏歌合に

大納言公實

山桜かゝしよりこの方なれぬるに雲とまがへて見てやすらん

遠山のさくらの事をよめる

前参議出雲出羽イ

九重よりかゝる雲と入てこそ大内山のさくらなりけれ

たゝしの歌

戒秀法師

春ゆゑにこゝをとまるる白川の花入てよりかゝるなりけり

源俊頼朝臣

白河の山乃ゝ雪のこゝ落て入て世松ゝ花の面影

ゆくゝ花をゝるぬさ世ゝ行ゝる

白河院御製

春ゝ風ゝ花のこゝろをさそいこゝぬさとのゝわゝる

猶ゝつゝるの彩ゝ花乃ゝ山ゝ入て水過

桜花ゝ散ゝ乃ゝ山ゝ入て水過

源師賢朝臣

一條院御時ゝ内裏ゝ花ゝ見ゝ侍ゝ

ゝ

一條院御時ゝ内裏ゝ花ゝ見ゝ侍ゝ

ゝ

[illegible]

伊勢之捕

[illegible]

新院のおりせまりて百首のうちまつ

[illegible]

右近中将教長朝臣

[illegible]

[illegible]

源重平

[illegible]

たゝしの

道覚法師

[illegible]

贈左兵衛督

[illegible]

源忠季

[illegible]

[illegible]

藤原元真

[illegible]

[illegible]

[illegible]

大中臣能宣朝臣

たのしさは春のあけぼのにはるかすみ
たなびくをかの花ぞかすみける

かすみをわけてもいでしはるかぜに
ちりてのちこそつもるなりけり

ちりてのちこそ雪とみるべきに
あやまりもとめよとはなにぞ

梅花ちりてのち雪とみるべきに
ちりてのちこそつもるなりけり

まつのうへにちりかかるはなのしらゆきは
まつのくもりのはるのなごりか

源頼朝臣

ちりぬれば春のかぜにはなのかを
ちりぬるかぜにはるのかをとは

源師賢朝臣

ちりぬれば春のかぜにはなのかを
ちりぬるかぜにはるのかをとは

菅原道房朝臣の家にて花人に梅花と
いふことをよめる

菅原の範永朝臣

ちりぬれば春のかぜにはなのかを
ちりぬるかぜにはるのかをとは

前山階左府御女
まつやとのさくらをねたむ時ハ心やすくも海の世をなれ
さくら花のちるを見てよめる
源俊頼朝臣
あすよりハおもひもよらぬ海の花ならハふしや我との(?)をしけれ
落花満庭といふ事をよめる
花園左大臣
庭もせにつもれる雪と見えなからかをるそ花のしるしなりける
題しらす
大中臣能宣朝臣
ちる花にせきとめらるゝ山川のふかくも春のなりにけるかな

寛和二年内裏の哥合によめる
藤原長能
ひとゝせにわかぬるひをつなくはや八重かさなれる山吹の花
麗景殿の女御の家の哥合によめる
よみ人しらす
八重さけるかひこそなけれ山吹のちらはひとへもあらしとおもへは
堀河院御時百首哥たてまつりけるによめる
太皇太后宮肥後
こぬ人をまちかね山のよふこ鳥おなしこゝろに哀とそきく
新院くらゐにおはしましゝとき牡丹をよませ給ける

[illegible]

関白太政大臣

[illegible]

老人惜春

摘後郷

[illegible]

三月盡日

[illegible]

新院御製

[illegible]

詞花和哥集巻第二

夏

卯月の一日よりまゐる

増基法師

ふるさとのはなはいかにとのこたへもせんとはいはぬ

源俊頼朝臣

雪の色をぬきてさかせるはななれば人のこころぞあらたまりける

祐院長官にて侍りける時のはるのはじめの

まつりのかへりにまかりとまりてかの

人のもとへつかはしける

大蔵卿長房

神まつりのかへりにまかりとまりてかの

さつきのはじめの山ちかきほとゝぎすを聞つけて

源重宗

郭公をまちつるかなあけぬるにこゑ

聞侍

ひとこゑもあけぬるなかにほとゝぎす

雲井にとをくなのりすてゝ

郭公の

藤原忠通

しゝ十首つかまつりける世にはべりける

郭公の

藤原忠通

郭公のこゑをまちていねよかしとこゝろ

[illegible]

たいしゝ

花山院内大臣

こゝろもとまつ秋をとふとて秋さきぬ
山寺にこもりて侍りける郭公のこゑ

物さわがしいなる秋の

道命法師

山ぢのひとをなかめに郭公をこの人のこゑ待ん

紫式部

郭公こたへぬ山にあるこゑを
聞こたへる山郭公

藤原行家

郭公暁もとめて聞ばとまらぬ秋のこゑ

大納言公教

おもひつるこゑをまつ時なるこゑ聞ぬ
岡中時鳥とて事歌よみける

源俊頼朝臣

あさ月夜ゆ秋にかゝるむ郭公こゑ
聞ぬらむ

侍賢門院堀川

こゑ乃ゝ家あるまゝ
古郭公ふるの家よ
ゝく

源頼家卿

郭公たゝく水鶏の戸を明て後れ

たづら雪

皇太后門院法歌に

みかきもりゑじの火たく夜のあけぬれば
櫓の上の雪にまがふ白たへ

大蔵卿匡房

春たちてこしのやまぢの雪ゆきとけぬるかぜに
花ぞまがへる

右大臣の家の歌合よめる

源忠季

さゆるかぜにはるのあらしをふきとめてゆきの
花さそ

郁芳門院のあつめのねなりをよめる

中納言通俊

とりかへやくぶかぜ山のゆきをとけんかぜ
花園通宗卿の家の歌合に春のうたよめる

良暹法師

さゆるかぜにはるのあらしをふきとめてゆきの
花さそ

よをそむき侍りてのち花ちるを見て

しらぬ海を船こぎ出でぬ

花山院の御製

常をくさくさの橋はかりわたしもとゝまりよ
みてこのうたをよめる

花園左大臣

[illegible]

贈右大臣の家より合一份くるよしあり

源理大夫鄭季

[illegible]

寛和二年内裏歌合

大貳高遠

[illegible]

六条右大臣家より合一份くるよしあり

[illegible]

[illegible]

水色紙源氏物語

菊原家紙

[illegible]

[illegible]

菅祢好忠

[illegible]

長保五年入道右大臣の家より合一份

[illegible]

源道済

[illegible]

題一首

菅祢好忠

[illegible]

同六月七日よめる

太宰大弐大貳

ほしあひと船のもとをんせしかの雲をうそとやみる

さうゐん

毎月一首

下とをちひとつとらるる秋はきの林とおもふ物ゆゑ

らんたく

忠乃

恋ゆゑにまつ秋とかはあまのかはとうのみ(けい)しらふ

寂ふ

詞花和歌集巻第三

秋

題しらず

菅原好忠

ながつきのこの間をうしなはじとやさをれわが庵の前

はのくもるをりをりとうぐいす侍るなるなりとも

但しこのかりわかるれをつひつるもの

備前清成

きりぎりすなくなるとこのあつ田乃杜の秋の風

七月七日式部大輔資業ものりとまてよめる

橘元任

荻乃葉にむすふ京しきさゝかにハ七夕のあふよやしらぬ（のくらん）
かしらおろさせ給てのち七月七日よませ給ける
花山院御製
七夕にころもゝぬきてかしつへしことしもやかふ墨染の袖
嘉暦二年内裏歌合によめる
菅原親総朝臣
たなはたのあふよと思へねと萬代のたのむかはらぬ中の
たのしらむ
加賀左衛門
いつれかとたくそのかすしも天河あふせにわたせかさゝきの橋
新院のおほせにてたてまつりし百首にたなはた

をりによめる
左京大夫顕輔
天河よこきる雲や七夕乃そらたき物の煙なるらん
寛和二年内裏歌合によめる
大中臣能宣朝臣
おほつかなわかれやさためし天河たゝ一夜とそことなりにし
七夕をよめる
修理大夫顕季
天河たえせぬ橋（あふ）のそきてもさゝむわかさせたてよあまのよ
橋とつくるの山もとにて七夕の船のふ
をよめる
良暹法師
わか宿にいくらもあらぬ七夕のかるかやもさしいつかさすらん

前参議経朝卿

古郷をちきりしのはらさとはわかぬ月にやいつるらん
まつしつ

祝部成仲

天河てりぬる月をもちいてし山にしもやまさかりなん

三条太政大臣の家にて八月十五夜に
翫月といふ事をよめる

源順

あきさよのこゝろやとれる秋の月さやけき世まて宿とはまんとおもひん

たいしらす

左大臣

いつれの間も光かはらぬ月影の秋はもとよりてりまさるらん

家に歌合し侍りけるに

右衛門督家成

春夏はこえてやかはる秋の夜の月もひとしてゝるさるらん

月を御覧してよませ給ける

三條院御製

秋にまたあはんあはしもしらぬ身はこよひはかりの月をたにみん

たいしらす

天台座主明快

おもひいてもなき身なれとも世の中にめくりあひぬるこよひの秋の月

関白前太政大臣の家にてよめる

藤原重基

秋の夜の月にた光のもる山は木の下かけもさやけかりけり

ひえの山の念仏にのほりて月をみてよめる

良暹法師

天津風雲吹はらふたかねにて入まて見つる秋の夜の月

京極前太政大臣家の歌合によめる

源師忠朝臣

秋のよの月に心のひかれつゝまつ山とへやおもひけむ

関白前太政大臣家にて八月十五夜の心をよめる

藤原朝隆朝臣

ひく駒に影をならへてあふさかの関路よりこそ月はいてけれ

左衛門督家成か家にて歌合し侍けるによめる

隆縁法師

秋風に霧吹はれてくもらぬ月をみるに立よるへき雲ゐの月とまり川ころなきよるへく

大江嘉言

秋の夜の月まちかねて思ひやる心いくたひ山をこゆらん

月浮山水といふ心をよめる

藤原忠通

秋山の清水はくましにこりなはやとれる月のくもりもそする

寛和二年内裏哥合によませ給ける

わさ乃屋の月よのわくかくゝ雲井よりはてゝ出てゝ乃

たゝ一ゝ

源通親

ひとわたりしら雲の節のゝ風ゝそ秋のゝ

大江為言

おき所ゝそ秋風吹ぬるゝ山ゝ乃ゝ露の色

和泉式部

秋ゝ来ゝ乃ゝ風の風ゝ乃ゝ吹ゝ乃ゝ風ゝ乃ゝ

みゝのきゝ乃ゝけゝ乃ゝ秋ゝ乃ゝ風ゝそ吹ぬゝん

前内大臣

花ゝ乃ゝ色ゝ乃ゝ変ゝ乃ゝ吹ゝ乃ゝ風ゝ乃ゝ

きゝわゝ乃ゝ身ゝ乃ゝ

菅原孝標

岩ゝわゝよ玉川もゝ乃ゝ秋ゝ乃ゝ色ゝ乃ゝ

法師ゝ乃ゝ

きゝて乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ

赤染衛門

秋ゝ乃ゝ野ゝ乃ゝ花ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ

かゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ

ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ

よめる　　　　禖子内親王

神垣にかゝるとならハ朝かほもゆふかけまたぬ花にぞありける

堀河院の御時百首歌たてまつりけるによめる

隆源法師

ぬしやたれ風にたゝよふ人めかしまかへる夜ならぬ野べにこゝろかな

白河院鳥羽殿にて前栽合せさせ給ひけるによめる

周防内侍

わきてなく露をしげきなる萩かえにことさらにしも野べや見ゆらん

敦輔王

秋風の事ならぬ合ふたはなのちる萩とそまれならん

題しらず　　　　曽禰好忠

秋野ハ紫むらことによそく露ハさらに虫の浪にも

永縁法師

八重葎しげれる宿ハ夜もすから虫乃音きくそとりところなる

和泉式部

あく雲のひとつ晴まにきこゆらんはしのやまのきは

みちのくの紅そめのいろかはらぬの園なる野にもしのぶよはかさなる

よめる　　　　橘為仲朝臣

小萩さくみやきの原のつゆにぬれつゝおもふこの野にも秋の萩の露

天禄三年女四宮歌合によみ侍る　　橘正通朝臣

秋風に霧を凌ぎて来る駒乃[illegible]

駒迎をよめる

大蔵卿匡房

あさ乃松吹風の[illegible]

永承四年内裏歌合によめる

出羽弁

きく人の[illegible]

たいしらす

藤原伊家

秋の花と草の枕もむすびてやちぐさ[illegible]

九月十三夜月照菊花といふ事をよませ給ひける

新院御製

故郷の花に宿かる[illegible]下葉の月をわたし[illegible]

関白前太政大臣家にてよめる

源雅光

霜かれてしめさぞ見えし白菊のうつろふ色をみせけるかな

題しらす

道命法師

こゝろみにさく花の[illegible]

曾禰好忠

草のいほりをまもりて人をとどめ家籠りをさせて日数のつもるまで大臣の御方にて人行客とする事

諸国右大臣

関こゆる人をいかにやみちのくにおくるるかなこよひ

むさしのゝ草のいほりをたのもしみ

二しほ山乃ゝみちをたづねてよめる

播磨守

いくとせかたづねぬるまでなれにけん

寛治元年大嘗会の前の日

大蔵卿匡房

はるかにおもひをこそ思ひたちしかど

思ひしらずも

当麻好忠

おもひこそ人をもしるべなりけれ

春ゝわ法輪もよこもりて侍りし秋大井川

よ幻聚のしまもるをみてよめる

道命法師

雲間のわつきもとわもしらぬ

雨後紅葉と題して

源俊頼朝臣

ちりの時雨のそそぎぬれともうつる色なき

月のあくるを待ちわびてよめる

平重國

わすれてはいとどこまちぞまさりける我宿の秋の夜の月

一条摂政家障子よみ侍りける

あくるまはかくこそなりけれ

秋の夜のあけぬるかぎりなりけれ

藤原惟成

ちぶり霜をうつ絹

大中臣能宣朝臣

うつ衣きぬぬぎかけ

雨中の月を

藤大納言公任

ふるあめの中にてやどるつきをみて

ひとりぬれぬるかなとぞ思ふ

詞花和歌集巻第四

冬

題不知　　前参議好忠

[illegible]

秋はてゝさらぬ[illegible]

家にて会し侍るに後朝を[illegible]

大蔵卿通

[illegible]

たゝ[illegible]

[illegible]　　左兵衛督家成

[illegible]

[illegible]

大江加言

後朝恋の心を[illegible]

惟宗隆教

[illegible]

後葉の[illegible]

風吹[illegible]

[illegible]

前参議好忠

[illegible]

[illegible]

秋和歌の中に

東山百寺をとりあつめたるよしをよめる

左京大夫道雅

ちりてのち思ひ出でにもなるものを散りぬべきかな

旅宿時雨といへるをよめる

贈西上人

いそのかみ古郷の雨のくもりなく時雨はとまれ

天暦の御時の屏風にわたりをよめる

ちはやぶる宇治の川霧たちぬれば

平忠盛

天暦の御時の屏風にわたりをよめる

紀貫之

あまの川霧立ちぬれば

菅原長能

わたりもあへぬ霧の中にぬれぬ宿なしとなげく

法皇院の御時百首歌たてまつりしとき

大蔵卿匡房

ながれてはいくせの淵にかはるらん

大和守にて侍りしとき

源頼政

ながれてはいくせの淵にかはるらん

菅原義忠朝臣

さよふけて吉野の山のさむけきにあらしのみふくはつ雪
題しらす　大蔵卿匡房
おく山の岩かき紅葉ちりはてゝ朽葉か上に雪そつもれる
大江嘉言
日くらしに山ちのきのふしくれしはふしの高ねの雪にそありける
新院くらゐにおはしましゝ時雪中眺望
さゝ雪ふかきよのすゑ世にあれはゝ見ゆる人々
関白太政大臣
紀よ見えしこほりし霜にかれゆく神なひの杜
たつしらぬ
和泉式部
まつ人のいまもきたらはいかゝせむふままくをしき庭の雪かな
歳暮乃こゝろをよめる
成尋法師
あすあらぬ身のゆくへの流るゝは老となるとしきていはね
曽祢好忠
玉まつるとしのをはりになりにけりけふにやまたもあはんとすらん

詞花和謌集卷第五

賀

一条院上東門院より女せんせ給ひきよ
へ道方大納言

君代まもあふぎ川のそこ清みなかれてとつきぬしるしと
四月一日みそぎしにまかりけるに
よみて

伊勢大輔

ちはやぶるかみのいがきにしめはへてなほ人のもとの
一条院大納言乃家の障子によせられける
ちとせをかけてよはひをぞ

大中臣能宣朝臣

[illegible]

[illegible]

[illegible]

長元八年宮合おほとの[illegible]

能因法師

[illegible]

[illegible]

三条右大臣の屏風のうた[illegible]

中務

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

後冷泉院御制長

上東門院御屏風より十二月つきもの

第六紙云云

河原院よりかへりて

松陰池

惠慶法師

後三条院

大納言経信

詞花和哥集卷第六

別

参議廣業卿

民部卿侍

[illegible]

和泉式部

[illegible]

左京大夫顕輔

いつてもそ　源俊頼朝臣

よろこびをくるよりくるはるかぜ　とえてそうめうの

橘則光朝臣

ゆきもうす　歳　侍従

藤原輔尹朝臣

こまわかれまいりのみちこれもまた長別のなかの

もとのやきもの　女の御文のてわたりそよ

さかわかるよりいつもうすかる

藤原道綱

うつわものもいとものうすのかの月の別れわら

大納言経信卿

ちはやぶるかみのいせのうらかぜ

津守国基

六条御息所

つよ侍ら　女の松のかこそ

歳　ひとりのうらかぜ

一條院皇后宮

わかれすゆめもむすびもこ思ひ　こ隠ぬるもん

ものもうらのあやまりて人の国

ものもうらのさしてよあら

法橋有祥

月ごろ人のもとにまゐりしあひてのち日
あるべきよあひしてよあり

玄範法師

[illegible]
[illegible]
[illegible]

寂照法師

[illegible]
[illegible]

僧都清胤

[illegible]
大納言經信卿家[illegible]
後朝[illegible]

大宮大后宮甲斐

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

東宮[illegible]宮[illegible]通[illegible]

源隆房卿家歌合に寄月恋

ゆくすゑを馬よりてつゝもる

權僧正永縁

月別るゝよつさの松をれなくて
あはれまつかゆるのやとりて待もるかな

つゆよりあらきもるよもすゑ

くゝはぬしいき　傀儡廬

ちかつくも朝乃別のおもかつらゝ

詞花和歌集巻第七

戀上

恋のうたとてよめる侍りける

関白前太政大臣

あやしくもなりにしかなのあるかはりはいかなりてかは

恋しきものとおもひそめしを

前右衛門督公任

いとかはりはてにしわれとなりぬれば

恋しきものとなりてもなほ

僧惠法師

恋しきものとおもひそめしを

堀川院御時百首歌たてまつるとき

大蔵卿匡房

恋ふれば

平忠盛

堀川の殿の家の百首のうちに恋

春立てる日兼香屋乃りてけらし

一条院御製

きりの

よとともに恋つるるとすれば

兼盛

藤原仲家

恋しいとはいふものとはいはぬ

新院くるるよおつまり時うのとたこと
はおよりて孫宮の恵とうまをとのさせ
給ひきるふらのれ

右兵衛督公能

あさしの方となりてくるる人のつれなのわせ
寛和二年内裏歌合によめる

藤原惟成

いつちわくかのよりわんよりあるとあるわ世のあて
たゑ大まり野浦の家より合ーゆくるふよ
のる

大納言成通

ふ風の裏とつん事とわ〳〵ゆてゆてつくとそ思
慈ーーに

寛念法師

慈ーーに
慈ーーに
ゆくとわ〳〵の行さとう民まとうう月のとてを思るあき
慈ーーに

賀茂成助

浄蓮法師

月為しゆくさ〳〵と〳〵ゆのつくるなよのつくるさよ
ゆをあひてうひきるこうらわてつの国よ
あくとつ〳〵ゆよ海ゆりてかゆ世のりとよゆる

ちりもとふか
　　　　　　　　　　平忠盛
まちやこの中宮のまへに思ひけむ事はとをされさわぐ
たつしるし
　　　　　　　　讀人不知
うしとみて世をそむきにし身なれども思ひは我袖ぞぬれ
待ぬ花を惜みて見んと思ふ身もなほ心ありておもふ
思ひきや我身ひとつにかゝるこそよのつねならぬ身なりけん
　　　　　　　　能因法師
ゆきとまる御神や流れわかるゝこゝろをしきよみぬ
わかるゝもわかるゝもうらみぬの
てつは世をかへるよしもちわてまつりき海

よきこともわすれていひしそのちぎり月
つくづくとひとりねてこそひつらきそ
　　　　　　　　前大納言公任
かひ思ひはあまの中をいでし三河のわたり
三井寺に住けるころ京に出てまかり
ぬつきちりさわて待わたるを見てそ
ふるとはきこえしそれさへわすれはてぬ
流るゝ月
　　　　　　　　僧都覚雅
ひなびにしぬしなき宿の月なれやそこもかはらぬ
さらにあらき風もなかりき七月七日流に

大納言道綱

[illegible]

恵奇

[illegible]

隆源法師

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

道家法師

山桜花散りしく頃の夕べかな
嵯峨の院に侍りける時
乃木方よりかはらるるよ端寄石文
とをとゝ人をとゝ乃つゝみときて
よさて侍りける
[illegible]

源家時

霜とうぬ[illegible]
[illegible]

大納言公実卿

中納言[illegible]
[illegible]

藤原顕綱朝臣

[illegible]

源道濃

[illegible]

源雅光

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

詞苑和謌集巻第八

恋下

人をこひまもりてこそつひのもみぢかな
あらくはげしかりけるやつひのもみぢて
つくわたすはるのこれなりけりまち

藤原相如

君をとりおりつひのもみぢやつひのもとのこそやられて
あつまこと

菅原宣孝

わがこひはあひそのてこそはなさかぬ月のうちにあるかな
あかりこそわがあつさこそわがひつ

[illegible]

清原元輔

[illegible]

藤原[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

大江為基

よのなかをいとはしとこそおもへとてさしてこのわさたちきる日うの雨にもまさりてこそわるかりけれ

一文紀伊

ひさかたの空にもあらぬ秋の雨にあらぬ涙のつきもせぬかな

坂上明兼

世をしらぬ人の心をとのつゝみおもふ心はとゝそけき

恵慶法師

あつまのかたにくだりはてゝ我をとひたまへりしに

等思為人とうしをもあつ事をとあつ

右大臣

ふるとしのうらの事にはあらねとも我身ひとつのあきかなしさ

おもふことはてしなきまてをかさけるこゝろいかにもとわはまし人なる

[illegible]

[illegible]

たいしの安

[illegible]

菅原好忠

きさらぎのはじめつかたの月のあかきに
新院くらゐのよのあらましのことなどの
思ひつゞけられけるなかに
くるる
関白前左大臣
こゝぬしをうしなひて秋にたえぬる人の
思ひ出
和泉式部
ひさかたの雲ゐはるかに我ぬれぬ人はよそにや
月のあかきに海ゆくこゝろをよめる
の方のくもりはきえなくひかりもて
海さへ出ぬるをみるにつけてもあはれ
なりけり

たゞ一人
ゆくすえをたのみてはるかに海をこぐふねにのりて
平公誠
あまのすむかたのとまりをたのもしみ
かぜをまちつゝ海にこぐ舟
あまつかぜ吹きてはかなくみえわ
たるかたもなくてひかりもそ
家厳法師
みちのくにの海にさかなをとるあまの
たくなわをたのみてをとまりをもとめ

まへ行のくもゐのつねかはもとき
てよめる
和泉式部
たかせのとよわまつろよハさらくよ独ぬさゐちとせ
かりとるあしはきをかとこのりとつひしかる
つまとる
さうえん
わわるさろかわるわるかぬ命のゆとのらとかれ
かのひきる母のとよ人よとのつときてつひ
ほらしこかる
清原元輔
こさのこさすしのるの琴の浪とかりるわるわ
人とせぬおとくよしらきる

俊子内親王大進
とゝぬまとうしらさきまくあのよとて松かわるあ
おとくこのたらくあのわとろいとろひ
あるへのあまのよ
高階章行朋良女
ゆりひつかまこの水のあらくよ成りのかとそを
いとをくはきるとるの大備山行るこの
りとへかわひとひしかるこかる
律師仁祐
鶯にてとゝ氣の枝とすとを母のとるとをゆりひとるる

[illegible]

大僧正行尊

[illegible]

皇嘉門院出雲

[illegible]

中納言国信

[illegible]

藤原仲實卿

[illegible]

藤原基俊

[illegible]

清少納言

[illegible]

ひさしく音せぬおもひのつもるまま

よこ[illegible]

我そこの人をもとめてをとこ

中納言通俊

[illegible]

[illegible]

中納言通俊

まつらぬをとこ[illegible]

おもひ[illegible]

[illegible]

和泉式部

大江公資よりまゐりてよめる

さうの人

[illegible]

[illegible]

[illegible]

詞花和歌集卷第九

雜上

[illegible]

源頼家卿

春宮院[illegible]の園のかのみのもとの[illegible]
遠河の院れいのうへのをとこどもに[illegible]
[illegible]

源俊頼朝臣

[illegible]

おなじけたちの百首のうちにまつわきてうち
よめる

あしたすてる雲のたえまにうすこそ露をはらふ天橋立

橋麿寺の僧わきてのぶ三月ノうわめみ
うわのかわ侍るまたのくるやまちと
つをころよ泰議為通卿たちわかれて
侍ときて例のうきもの

年忠盛朝臣

あらはるる花の光はぬれぬ我ぬるまゆつくるあ
ぬれもしわかせ侍ひるるまさるの花の

さそはるるもるさくやまさ侍ひてよるの世
侍ろう

花山院内侍長

木ずゑをはなれぬ花をのつる花みるかなまはぬ
人のりとも侍わるるまさるの花おも
しろく咲て侍ればたまわるのりく
のはるのうしろ

天台座主源心

ちるぬ花ぬ海ぬ人ぬ花まさきぬ勇ぬ
花をおしむこころをよめる

大蔵卿匡房

春くれはのちかくこのゝんてきようくてふいおうの若こえ御れ
宮治部大輔殿へ　右兵衛督殿へ　右大臣
くつらきそ
為とゝてへをうもしるふこそちらむとわさとるゝわれ
二条関白殿へ　内大臣殿へ　小式部内侍
仏をれくらゝあるゝ
夢ちゝのゝ
入道摂政殿へ　内の上　右兵衛督殿へ
なをく仏のきへ　ゝわそよゝく

清少この子ふさゝあし　大納言道綱母
新院位ゝおりゝ　摂政殿の御
ゝゝくらゝゝ　ゝ　ゝ　

さてまた奇しき夢ともて明かしつる
うつゝ伝きゝしよりの如房乃ゝる海ゝわ
只涙さうやくあのさゝ山とおもひとそ
こ乃ゝ世せもとつい忘れなとそ
贈左大臣

ゆゝしくもとゝ
左衛門督家成布ひさの滝見にまかりて
ゆゝしく人伝きゝしよりまゝ
藤原隆季朝臣

雲井よりつゝぬきのゝ
ゆゝしくも見とたきぬのひさの滝とゝ

新院くゝ
場面とゝ事をゝ
大炊御門行宗

あかつきの志ゝ
たゝ
律師静賢

ゆゝしくもとゝ
父長實伝法寺にて
月かくれてのちゝ
奇合ゝ侍
藤原長実

あるよなくさぶく侍りしかとこれにてわの月のわき
月わくゆきをるよりへ海にてきてなをしい侍
きるよ月つわよりなれ奥つきてとのくるつ
まんとーこまいをるをよろ

大中臣能宣朝臣

月ふるへ今はまきまるわかて独や秋ふををのらを世
ゆくーおるをを世行く後六条院のつらまて
月のうたてゆくるを見流てしよを世紙
きく

小一条院御製

いまはあるはるる月ふ侍るるの新をるる

左京大夫影浦中文亮よて侍るる対下蘭
よこそるるつ海ーどきてるの女房の中より
こまよ中るわきるを事をたれるるて
よの中とおりひみつわそみるさ山さーあるる月のをもむ限
四宴月こるる事をよの月世行るる

新院御製

月さよるこ国中よたてるわるれけるかるるるを
新院るるおよるーまーく時月あるく侍
るるを女藤よつるまてきてまるを侍るる

太政大臣

[illegible]
あれはてぬとよ月のもりてかきりをしらん

良暹法師

板ぶきわ月のもりとてたつぬ宿かはりてもしる人もなし

四大名

[illegible]の森のこすえの桜のすさまじ[illegible]

山家月[illegible]

源道濟

さびしさに家出ぬ[illegible]山里とたのむ月は思ひ[illegible]

新院殿よりて海辺月とつまをよろん

平忠盛朝臣

月[illegible]あはれとて海のうらにてをのをのみる

たつ[illegible]

藤為義朝臣

君まつ山のたに出る山のたよりまて月をみるあれ[illegible]

源の院の時中[illegible]の西方にて月つれて西房

よりはやきうりとよ月の山のこしわ立のうわ

きりとんて雲の月[illegible]

長[illegible]

大納言公實

いつ[illegible]月のうをみよ海[illegible]

たいしらの

花山院内大臣

山人よりの月をとりかへてうゑのかたなるうと
月のあるくかうの夜前大納言公任まうてき
こわうかまるをきくとてとくこうてあひ
くれまちかへてうゑかきたるうもり

中務の具平親王

うゑくうのあるうの月はよこぬくとたなまつとこれきけ
屏風のえのうのうへのうへにて月見あるうの
はうこころうよりあるう

大江為言

かく山のあるうのうへのうへにたうさて月見あるう
家より奇合はかうまうあるう

左京大夫顕輔

秋とはいへ山の端の月はまだきにて清んの雲はあるう
山城守よりまうてあるうのうへにたうこころうの月の
あるうもきるうの夜まうてきてこのうのうへ
うこの侍従家わてこのうあるう

前右兵衛尹知長

山のうへのうへのうへのうへのうへのうへ月けい
ひさしくきしせぬ人のうへのうへのうへ月のあるう

きゝ夜ひつゝけり

中院長国

月よこそしりの事なれわれとまゝ人とゝ
山ゝ寺ゝ海ゝわゝてゝきゝよ宗延法師よ
あひてよしもあつ初つい仏ゝよあわ明の
月乃みゝ山ゝわゝ乃ゝりわゝゝ乃ゝとゝよ
ゝ

林賢法師

ゝゝ
ゝゝゝ

和泉式部

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

清少納言

[illegible]

[illegible]

[illegible]

秋みの月の事なるを聞て

藤原隆財卿

よろれ共忠清

生侍よきれ共忠清

きてかのあり

藤原忠清

いつれ共おのれ共のあめさのこの月のうつるぬん

さうん

たてらん

信吉のうそいはせうをきとあるを

物知りいとうこころよろく

大納言道綱母

物思ふこころ

物思ふ事ふるこころ

ふるこころ

ふるこころ

ふるこころ

ふるこころ

ふるこころ

ふるこころ

ふるこころ

ふるこころ

ふるこころ

ふるこころ

ふるこころ

ふるこころ

赤染衛門

秋の月あはれの

志のひとの

出羽弁

志のひめらおとこの手もとまりてとしの
もとすの家あるこまてとよみける

和泉式部

恋せぬ人のきぬとなるとてつかはしける人もとわすれ
おもくなりひとるるよたちとくれないえうんか
うちふきまきとつひあるおとこのもとまりて
よみける

大貳三位

人のもとまりてひさしくなりぬるをいかにとのたまはせ
たりしかは

赤大弁俊雅母

ゆきかはよさのの海とをもはしたれのこ海人の
袖

長元八年宇佐ゆきの大宰大弐大原の家より京合
きりよりのちのことしいとしらしとあり
てこの人はかりのよみける

武部大夫資業

伊勢物語よりひとはらはしはわしはのをるはわれはな
もとのこ海人わきをとはしはきの
とのうさ物やあるとこうせをとおもひ人侍
きはしはあり

周防内侍

いかてかは物をおもはんあるは草をはよ来ものたりしを
冷泉院へたてまつりをとてよみ世る

家の

よの中よりひとをおきて行のこゝろをたしなむ

はゝそ

花山院御製

やまの井のこゝろをつくしてとこゝろをたしなむ

おもてをみくさのうへにあらそふ

冷泉院御製

わかれ路にあふ山ぢのよはあるかなれをゝのゝけさは

はの園よこそゝとつゝあるこゝろもわすれぬ

出のりとくつゝいつゝもち

和泉式部

法師

ひさかたの月をもちぬ我のこゝをおもふ方を成はれ

後二条家自しうのさとをもむけわかれ

家の中よりい入ぬ人ぬ

源仲正

みるさをすゝけはもちぬ

おもひやまとの山

源兵衛尉

こまわりて行きを備

みはみ月みはよりてよのうちにそのうちひ

平政綱

君いつすみわかまつかはあつまいるの孫とうゝ六位
長根所のうゝをよろこ
源道濱
なりしいるのあしかくとさてこれなわさちまつ秋風そ吹
陸奥国の住人
はれ雲のりとあうくよろ
橘為仲朝臣
あうさとゝ我ハくわぬ宮こ所ようをとう思
ようとゝ川さて仏げこうすの名ふまつわよ
へあて仏宮うよりいうる事をとてくに

たゝ家大夫影浦
うゝ仏宮仏うる
かれうゝ花の末ものうきたゝ雲の見とたの女ハわ
帰お川大臣あしよ仏うる対恋うのみく
やまいよるわてよろ
高内侍
ものつゝ都の内よあわをこいてよるさ
塩川院法皇百首うゝまつわきうゝ
よろう
大納言帥卿
為のうさ鶴さあう方を思ものまつ月まのとそ鶴さ

[illegible]

大蔵少輔房

たづねこしかの花のかをりをしたふにそ
[illegible]

大納言俊通

今はとてそつゑ[illegible]をしたひてをくる
[illegible]

小野宮大臣のりとよ海わくむしのねをも
[illegible]

清原元輔

あひ[illegible]をもつゑ[illegible]をあらしへとつまをまつ
[illegible]

賀茂政平

[illegible]

新院乃おんをもつて百首たてまつりける
[illegible]

藤原季通朝臣

[illegible]

神祇伯顕仲ひろたまて宮合しかて
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

詞花和哥集巻第十

雜下

[illegible]

[illegible]

源俊頼朝臣

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

藤原公重卿

しらまゆみ雲井をこゆる月なれば
新院御歌合に
うつるかゲ秋の夜ふけて月おそ
雲志とうつる事をよませ給ふ
なから

大江中務卿

みゆきのまくさを明よみわめるくさをとめるなかなん
桜花ちらをそよめ
ちる花をよそにおもひなんあつるまそれ春まそ

藤原實方朝臣

萩の露さいとくきこそちるよりも
清基法師

秋の野をそれかわもそよお花の風まそ
くをそてよ

源親元

花ちくさまくさをまとまわるしいつれの野へ
ゆらまこつるる
紅葉

白氣中文

ふそ中の花の東の白露あつるあさ風多へ

よのはかなくおぼえ世をすてんとおもふ心
せばしかるべし

花山院内侍

ちりつもるまつのみどりのうへにまたはらはれぬるあわゆきかな

和泉式部

ながめをるかぎりの色をなにしおはばはるのこころのうちにかをるべし

大納言忠教母

なにとなくとしてくれぬるはるのかぜはいかにとしてかはるらん

前右兵衛督良母

寄月恋

ちりのこるさくらのあるうらからかぜはるのこころのうちにかをるべし

法橋清昭

みるかのひとかたちよりはなれてそなきうんとをんなの
夏乃和とよむわかれはなるよりやこのてをうらはるるかな

神祇伯顕仲　女

こころうきよにまつりとなるきよ裏いるるやこはとんはかりくまわはるこころ雪のうちをうてよ

良還法師

おうつうまるさとぬかをさるの山雷かこうてうんと言ん

大江の挙周の別れを惜しむ

よんてくれきれいよめあり

赤染衛門

かりんこの命ありてさてもまちわんこそ時の

病おもくなりわが家あれば三井寺へまうわて家の

内ちうくときて行うに童子物をつよく乞さ

きぬかんこうやとつい行うれいあわよつてて

をきれいよう

大僧正行尊

こんなよう文をあ人内しに梅もちわく家人事ハ時る

そのちかりくるく方海わよもとうとそ

人のこみをうせて行うれいなあり

よ人人三次

こんなをしのきぬと行うこえ人事もあるとそ回

たいとうの

我ぬり事ハけきようて行うこの義ハえ公すの八

増基法師

わ方本ハ川もとうれいあわもあらんとわよ我ハ

大江八言

大つまをんたてしめ公こう後細川殿

[illegible]

良暹法師

[illegible]

[illegible]

賞智法師

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

大夏大石宮肥後

[illegible]

大中臣紙宣[illegible]

[illegible]

[illegible]

海河流に対百首のうちの中に

百とせ経るやとりてをこのよ蜘蛛をそなへ
むしめのさとりをせうるとくをようぶつ

大蔵卿匡房

あずまよりさまかつのつるあとをたれ杖をみとりよ
たかをかの郭補あつまのかをよ伊勢の時をを
きこりかの海原をつたなわかをけて
つい津をつ

源義国書

関白家歌合に

海上遠望

新院位よりまもりまもり対海上遠望とてよめる白雲
とをとりをせ行ふるまよりあり
ふるさとをこきをすてくこれ分くるの雲野よ海ふ神神霞
後冷泉院に対大嘗会を碁方に屏風に
俊中園に人のくるふるまりの人花つくまり
かくるを出るるまこころよりあり

藤原家経歌合に

新しまてたくてあまよりあたなかなたのこころの
今上大嘗祭紀方に屏風あつまの国

[illegible]

[illegible]

園韜院殿

せさせ給ひしとき[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

あたらしき世ぞかな

園融院殿御製

ながしの秋のあけぼのとこそおもへ

一条摂政御かはりのころよめる

ながめこしかたをかぎりとおもへども

なほうらめしきあけぼのの空

お和義孝

ながめつるかぎりとおもふ月だにも

なほうらめしきあけぼのの空

侍賢門院堀川

人にあはぬ秋のあけぼのうらめしき

ねやのとまりをたれかとはまし

重盛卿

ながめてもかぎりとおもふ月だにも

しらぬ

清原元輔

ながめてもかぎりなりけるこの夕べ

天暦のみかどの御時に

なでしこ

をくらべられけるとき

七月七日つかはしける

なでしこ

なでしこのはなのうへにおきまよふ

露をなみだにたとへてぞみる

わきまへ者よきをきき[illegible]

神祇伯顕仲

大江匡衡こと[illegible]

[illegible]

[illegible]

かくてのちのおもわ明神の御ことばにて
おやの恩をゆめ〳〵よそにすまじきを
こゝの事にてわ法師こゝろもちてい
のわ事をゝ法師の長者よやゝ〻神にわ
ひいてゝ祈もゝ〻〻
なりぬるゝ事を聞て伯母ゝ流るゝあやまち
かしのつゝしきことこゝろ付すよ西よむうのて
よゝ〻

遍子四親を
恭敬したてまつる事をゝれ給ふ事をゝ
信解品周流諸國五十余年とゝ
ゝ

神祇伯顕仲

あゝゝ分れゝゝ
即身成佛とゝ事をゝ
よゝ〻

寂滅のきゝて佛よゝ事法をゝ
舎利薄のゝ
ゝ世ゝゝよゝ

ゝそよゝと佛ゝ

[illegible]

常在靈鷲山のをしへ

登蓮法師

よの中は乃[illegible]

[illegible]